

10 月



図書館だよ!

河内中学校
R5.10.16

木々の葉が色づき始め、秋の気配が濃くなってきました。

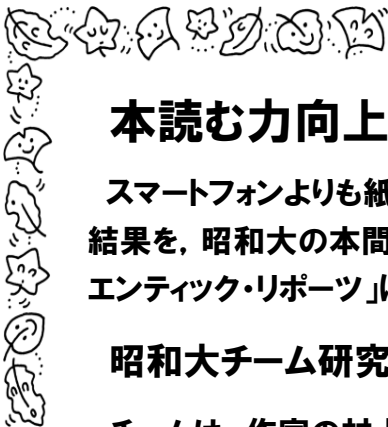
10月27日(金)から11月9日(木)の14日間は第77回 全国読書週間です。

全国の書店や公立図書館では、様々な催しが行われます。今年の標語は「**私のペースでしおいはすすむ**」です。様々なジャンルの本を読むことで、先人の知恵に学び、世界中の人々と心をつなげましょう。



～これから、新しい本が続々と入ってきます～

司書室の入り口近くの飾り棚に、新しい本を入れていきます。これから11月にかけて、30冊以上の本が入ります。ぜひお気に入りの一冊を見つけてください。



本読む力向上 スマホより紙 (2022, 2, 27 読売新聞の記事より)

スマートフォンよりも紙の本の方が、内容を記憶しやすく読解力が高まるとみられるとする研究結果を、昭和大の本間元康講師(認知科学)らの研究チームが発表した。論文が科学誌「サイエンティック・リポーツ」に掲載された。

昭和大チーム研究

チームは、作家の村上春樹さんの小説の一節を学生34人に、紙の本かスマホで読んでもらい、その後、主人公の見た風景や登場した会社名など、記憶や読解力に関する設問を10問(1問1点)出した。すると、紙で読んだ場合は平均8.9点、スマホでは同7.4点だった。

読書中、脳の前頭葉の活動はスマホの方が活発だった。脳が過剰に働き、注意力が散漫になっている可能性もあるという。読書中に深く呼吸した回数は、本で平均8.3回、スマホで同1.8回だった。本間講師は「本ではリラックスして読書できることがうかがえる」と分析している。

酒井邦嘉・東京大教授(言語脳科学)の話

「媒体の違いで脳活動や呼吸に差が出ることを見つけた興味深い研究だ。紙媒体の方が集中して読めると考えられるが、様々な解釈ができるので詳しい研究が必要だ」





こんな本を読んでみよう！

*カラー版がクロームのクラスルーム(図書館だより)で見られます。OWjf27p (オーダブリュージェイエフ 27ピー) です。

続 窓際のトットちゃん

黒柳 徹子 著

講談社



42年前に書かれた「窓際のトットちゃん」の続編です。著者、黒柳徹子さんの幼少期を回顧した前作は、全世界で2500万部を超えて読まれた大ベストセラー本。本作は黒柳さんの後半生を描いていますが、天真爛漫な個性のまま大人になった著者は、誰からも愛される女優となりました。ユニセフの活動や基金の創設に携わるその優しいお人柄が、読む人すべてに安心感を与えます。

分類：914 ク

泥

ルイス・サッカー 著 千葉 茂樹 訳 小学館



著者は世界中でベストセラーとなった「穴」の作者です。映画化もされているので、見た方もいるでしょう。本作「泥」は“エコ・バイオテラー・ミステリー・スリラー・コメディ” (?) という触れ込みで、世の中に出てきました。この本の背景には環境問題が隠されているようです。SDGsの世界観も内包した本作、この秋一押しの翻訳小説です。

分類：933 サ

「みんなと違う」自分を大切にする方法

本田 秀夫 著

KADOKAWA



誰かの「普通」に合わせることはもうやめてもいい。「普通」をすてるのは、何かをあきらめることに似ています。でもそれは、あなたが「本当に大切にしたいもの」を明らかにするための、前向きな行動です。～後略～

(本誌帯よりの引用)

分類：15 ホ

レモンをお金にかえる方法

ルイズ・アームストロング/文 ビル・バツソ/絵 佐和 隆光/訳

河出書房新社



本書はアメリカで経済学の入門書として、ティーンエイジのために書かれました。副書名は「経済学入門の巻」です。簡潔で要点を抑えた内容は、一度読んでみる価値がありますね。1982年に初版が発行された後は、長く絶版でしたが、2005年に新装版が発行され、現在は20刷を超える本となりました。

分類：33 ア

プラスチックのうみ

ミシェル・ロード/作 ジュリア・ブラッドマン/絵 河上 拓土/訳 磯辺 篤彦/監修 小学館



4人の子どもたちが小舟に乗り、海へと漕ぎ出します。そこには人の捨てた様々なゴミが回遊し、海にすむ魚やアザラシやウミガメを苦しめています。鮮やかなイラストが理解を助け、自然の大切さを読み進めていくごとに感じられる絵本です。SDGsの14 海の豊かさを守ろう について深く学べる一冊です。

分類：ロ (絵本)

